

甲斐黄金村・

湯之奥金山博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡一中山金山

No.108

2024.6.10



学校教育での利用続々！

湯之奥金山の歴史に触れてみませんか？

色とりどりの花が開き若葉が芽吹いた「山笑う」春はあっという間に過ぎ、辺りはすっかり深い緑に包まれています。気温も上がり、もう少しで本格的な夏を迎えようとしています。

5月に入り、多くの児童・生徒のみなさんに校外学習の場として当館をご利用いただきました。6月以降もたくさんのご予約をいただいています。インターネットが普及し、いつでも・誰でも簡単に情報を手に入れられる時代ではありますが、「ホンモノに触れ、人と出会う」ことができる学びを提供する博物館の役割は大きいと考えています。引き続き、湯之奥金山の歴史とご来館のみなさまとを橋渡しできるよう、調査研究を土台として館運営に努めてまいります。

戦国大名武田氏における金の利用

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 信藤祐仁

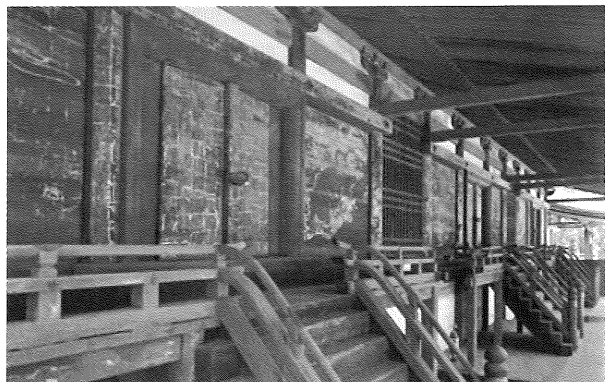
湯之奥金山などで得られた武田時代の金の利用については、なんとといってもそのままを利用した甲州金があげられます。そのほか純金の装飾金具への加工、金箔への加工、銅製品への鍍金（めっき）、仏像等に見られる截金（切金・きりがね）、文字や絵画に見られる金泥（きんでい・こんでい）があげられます。武田氏の金を利用した遺品等についていくつか見ていきたいと思ひます。

甲州金

武田氏の金利用の代表は甲州金です。甲州金の出土例については、甲州市の福寺遺跡で蛭藻金（ひるもきん）と呼ばれる小判状のものと碁石金と呼ばれる粒状のものが発見されています。諏訪大社秋宮境内でも蛭藻金と碁石金、笛吹市春日居町で大判が発見されています。そのほか数多くの伝世品があります。

鍍金の道具類

鍍金は、銅などの金属の表面に金の薄い膜を附着させる方法です。甲府市大泉寺には二基の笈があり、武田信虎・信玄の遺品と伝えられています。箱笈の形式で、金銅の金具を要所に配



窪八幡神社本殿の装飾壁画)

した「金銅金具装笈」です。笈は修験者や行者僧が本尊、法具、経巻、衣類などを入れて背負って持ち運んだりリュックサックのようなものです。この飾り金具に金メッキがしてあるだけでなく、内面には金泥の地に胎藏界地金剛界の大日如来の種字が黒漆で描かれています。

武田城下町の調査では、金の工房跡が確認されています。銅製の調度品の一部と思われる金具に金鍍金が施されており、かわらけと呼ばれる素焼きの皿型土器には、溶融物の中に金が含まれていることが分析で判明しました。

截金技法

截金とはまず金箔をつくりそれを極細の線に切って、その金箔を貼り文様を施す装飾技法です。金箔は薄すぎると加工が大変なので、腰をもたせた程度の厚さが必要です。今では金箔数枚を焼き合わせて利用するそうです。それを筆の先端につけて貼りながら種々なる文様を描き出す技法で、仏像や仏画の加飾荘嚴として用いられました。2本の筆で一方に膠（にかわ）と布海苔（ふのり）を混ぜた接着剤を含ませ、もう片方の取り筆で神経を研ぎ澄ませながら金箔を置いていく技法です。



円光院蔵勝軍地藏像

甲府市円光院の「木造厨子入刀八毘沙門天及び勝軍地藏坐像」は、京都の七條仏師の康清作

とされている像です。寺伝では武田信玄が陣中の守り本尊としていたものを、信玄没後に重臣の馬場信春が遺命により当寺に奉納したとされています。細かい截金によって仏像の鎧と条帛の文様を施しているのがわかります。

金箔の絵画

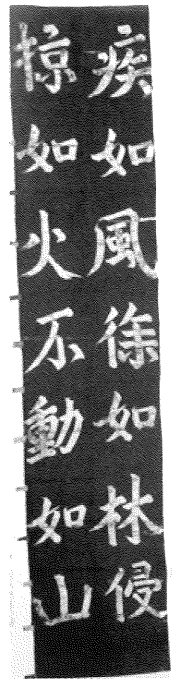
金箔は、金を金槌などで叩いて非常に薄く延ばしたものです。今では金沢の金箔が有名ですが、武田時代の甲斐においても製作されていたものと思われます。

金箔としての利用は、山梨市の窪八幡神社本殿の壁画があります。室町時代の代表的神社建築で、三間社流造の建物三棟を連結させた十一間社流造は日本最長で重要文化財に指定されています。各社殿の正面中央は幣軸構えの板唐戸となっており、両脇間とともに、花鳥や走獣図が描かれています。『甲斐国志』には、弘治三年（1557）に信玄が信州に出陣の折に扉に金箔を押し再興せしめたとあります。それぞれの絵の背後の部分にあたる空間を金箔で埋めつくしています。

甲府市下曾根の福歳大神社本殿の扉絵は、信玄の弟武田逍遙軒が描いたもので、最初は笛吹市寺尾の諏訪南宮大神社本殿に奉納されたものです。『甲斐国志』には「扉は逍遙軒信綱寄附松杉桜四季の草花等も描く」とあります。四季を表した4枚の扉を2枚ずつ保管されていますが、諏訪南宮社に残されたものは現在山梨県立博物館に寄託されています。もとは両社並列してあったものを、分社して両社殿に分けられてしまったとのこと。本殿扉絵は開き戸になっており、左右一対によって一画面が構成され、金箔押しの板戸に濃彩で杉松を描き雲形も描かれていますが、表面が荒れてしまっていて全体像は把握しにくくなっています。裏面には4扉とも桜の花が描かれています。

金泥の彫刻と旗

金泥は、金箔を粉状にして膠で溶いたものです。甲州市恵林寺の木造武田不動尊坐像並びに二童子像は三軀とも当初の截金、金泥を多用し



恵林寺武田不動尊と風林火山の旗

た極彩色が残っています。この像は信玄をモデルに造られたとの伝承を持ち、信玄が自ら髪の毛を焼いて像の髪の毛の彩色に用いたとされています。不動明王がまとう条帛の文様には、武田氏の家紋である花菱文や竜の図案化されたものが金泥で描かれています。頭の内部に墨書が発見され元亀三年（1572）、信玄の没する前年に七条仏師の一人康住によって制作されたことがわかりました。金泥は仏像を荘厳化させるため、厨子の内側をすべて金泥で塗ったり、台座の表面の装飾にも用いられています。

武田信玄の軍旗といえば「風林火山」の「孫子」の旗が有名です。同旗は武田神社ほか何處か残されていますが、甲州市雲峰寺には紺地に金泥で「疾如風徐如林侵掠如火不動如山」と書かれた旗が六旒残されています。この旗は、信玄の師であり菩提寺恵林寺の快川和尚が大書したものと伝えられています。また同寺には赤地に金泥で「南無諏方南宮法性上下大明神」の諏方神号旗も伝えられており、戦において武神である諏方大明神の加護を受ける祈念が込められていると思われます。



信濃館長によるブログ
「シン・ドウノヘヤ」は
こちら▶



■ 調査研究活動 01 5/24 (金)～26 (日) 美利河金山 現地視察

湯之奥金山は、鉍石を採掘→鉍山臼で細かく粉碎→比重選考で汰り分け→高温で熱し地金にする、という、鉍石から人為的に金をとる作業が行われた「山金」遺跡です。

奈良時代、東大寺盧舎那仏の鍍金材料として用いられたことが、日本最古の産金の記録です。黄金山産金遺跡(宮城)は地表に現れた金鉍脈が侵食され、石英脈中の金が流水により移動した金を採る「川金」の遺跡です。山金・川金に加え「柴金」があります。鉍脈の近くで鉍石の風化によりそこから分離した金のことで、川の流路が変化し、河岸段丘上の礫層に含まれるようになった砂金のことを指します。身延町にも、かつて砂金を採掘した柴金遺構の穴が残されています。当館では、この柴金遺構も少しずつ現場確認調査を重ね、さらに県内外の遺跡を訪れながら比較研究を進めています。

さて、美利河金山は北海道の南部・今金町に位置する「柴金」遺跡です。旧石器時代の「ピリカ遺跡(国史跡)」がある場所としても有名です。美利河金山では、昭和56年・63年に美利河ダム建設に伴う調査で、縦横無尽に走る水路や石垣などが確認されました。このほか、広大な土地に展開された複数の柴金遺構や、カニカン岳の鉍山臼・坑道跡などが確認されています。令和4年度には『今金町文化財保存活用地域計画』が策定され、調査と同時に教育や観光での活用に向けて取り組みが活発に行われています。



本調査は、今金町の文化財保存事業の一環として地域講演会と現地検討調査に招かれた井澤英二先生、久間英樹先生に、小松・伊藤両学芸員も調査メンバーとして加わったものです。

遺跡範囲内には、長い歳月を経て水流による摩耗で丸くなった人頭大の花崗岩、チャート、石英の礫が辺り一面に積まれ、その規模の大きさに驚かされました。まさに砂金が含まれた礫層を洗い流した跡です。

静岡県の井川山中にも柴金遺構の丸礫の石積みが広範に残っていますが、その規模をはるかにしのぐ遺構の広がりでした。また、身延町内のもは金が含まれた層を坑道状に掘った跡をしており、そのようすは大きく異なります。

26日の講演会では井澤先生、久間先生による地質の視点から金の産し方や佐渡の西三川砂金山での調査結果など、地域の方を中心にたくさんの方が聴講しました。今視察全般において今金町教育委員会のみなさまにはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

▶今金町の文化財について
知りたい方はこちら



▶今回訪れた「ピリカ旧石器文化館」
の詳細はこちら知りたい方はこちら



■ 活動報告 01 4/2 (火) 下部ホテル・新人研修

当館は学校教育や一般団体利用のほか、企業研修の場としてもご利用いただいています。この4月も、下部ホテルの新入社員研修で6人のスタッフが訪れました。湯之奥金山の歴史や、地域の観光振興を視野に入れ開催している当館イベントの内容、また集客工夫について理解を深めていただきました。

■活動報告 02 4/19 金・5/23 木 古文書教室①・②

今年度の古文書教室が始まりました。当館の古文書や甲州金研究にご尽力いただき、運営委員でもある西脇康先生のご指導のもと、地域の古文書を解読できる人材の育成を目標に開催しています。現在、佐渡金銀山に関わる資料が教材です。町内にお住いの方を中心に一緒に解読しています。教室で読み解いた成果は今年度の『金山史研究』（当館研究紀要）にて掲載予定です。学びを深めながら資料読破にむけて生徒全員で取り組み中です。

■活動報告 03 5/12 日 第4回 館長講座

第4回目館長講座は、甲斐源氏の系図を順にたどりながら、県内の土地と名字の関係性などを中心に、「甲斐源氏と峡南」と題して開催しました。

さて、館長講座以外に館では、歴史散策イベント「シン・サンポ」などを不定期で開催していますが、次回散策は秋ごろを予定。みなさまお誘いあわせのうえ、こちらもお気軽にご参加ください。

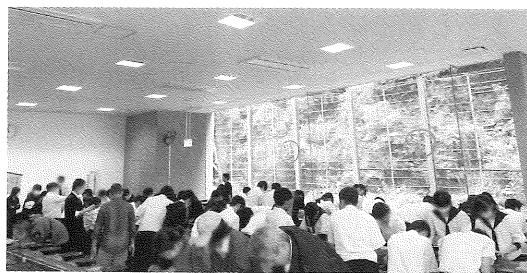


■活動報告 04 5/18 土 山梨文化学園にて山梨文化学園歴史文化教室講座

山梨文化学園の歴史文化教室では、「よみがえる山梨の歴史と文化」と題し、甲斐の渡来人、柳澤吉保の菩提寺、甲府道祖神幕絵、明治40年の大水害、武田信玄の城など、山梨の歴史を学ぶ通年講座が開催されています。今年度第2回目講座は、「よみがえる甲斐の金山—ゴールドラッシュに沸いた国—」と題し、当館の小松学芸員が担当。日本におけるゴールドラッシュの歴史の話題から甲州金、湯之奥3金山を中心とする近年の調査研究の現状について触れ、鉾山史の視点から山梨の歴史にせまりました。約30人程が受講し、「金山のイメージが変わった」、「初めて触れた分野だったが興味深く面白かった」など、受講者から感想が寄せられました。

■活動報告 05 4～6月 学校教育利用・一般団体利用続々！

観光人流が戻り、当館におけるグループ利用も戻ってきました。新年度がスタートして2ヶ月、地域学習の場としてたくさんの児童生徒が訪れています（中学校7校、高等学校2校）。展示観覧で湯之奥金山の歴史と山金作業について学び、砂金採り体験で「汰りわけ（比重選鉱）」を実体験し、学びの効果を高めています。



一般団体によるご利用も多くいただいています。今年度は特に静岡の旅行会社企画のミステリーツアーに組み込まれ、これまで600人超のご来館をいただきました。

6月以降の新規ご予約も承っています。ご来館を検討されている先生方・旅行会社の皆様、お気軽にお問合せください。また、ご来館の際はどうぞお気をつけてお越しください。

■トピックス 6/1 土 49万人目のお客様をおむかえしました

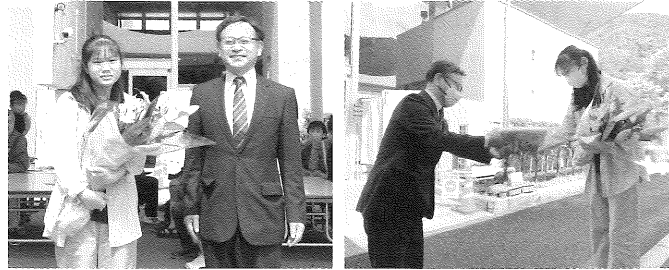
当館では有料入館1万人のお客様を記念顕彰しています。爽やかな青空が広がったこの日、49万人目となるお客様のご利用がありました。記念入館者となったのは、静岡県から団体ツアーでお越

しの大橋紗奈さん（中学2年生）。親戚の方から誘いを受け来館されたそうです。

入館番号「490,000」が記されたチケットを手にした大橋さんは、突然のことに驚いたようでしたが、信藤館長から花束と当館オリジナルグッズが手渡され、たいへん喜んでくださいました。後日、大橋さんには世界でひとつの金箔で作られた「オリジナル記念入館章」がお手元に届く予定です。

開館から27年、たくさんのお客様にご来館いただきました。1万人ごとの記念日をむかえられるのは、ご利用くださるお客様、日ごろ博物館を応援してくれる方々のおかげです。

これからも、地元のみなさまにはもちろんのこと、たくさんの方に「来てよかった」「また来たい」と思っただけ「地域の博物館」を目指し努力してまいります。



■ もーん父さん活動トピックス

4/5 金 春の交通安全運動 出発式

新生活・新学期が始まったばかりのこの日、当館のもーん父さんが春の交通安全運動の一環である身延駅前での街頭指導に参加し、安全運転を呼びかけました。

4/20 土 もんふあんみーていんぐ&もーん父さん写真展（～5/31）

博物館のPR活動を頑張るもーん父さん。SNSでの日々の情報発信、館内でのグリーティング、町内イベントやご当地キャラクターイベントへの参加などを通して、少しずつその名が知られるようになってきました。最近では、これらの活動で博物館やもーん父さんのことを知り、実際に当館へ足を運んでくださるお客様がかなり増えています。

そうしたなか、当館の開館記念日である4月24日に合わせ、日々応援してくれる方々へ感謝の気持ちをお伝えしようと初の試みである「もんふあんみーていんぐ」を開催しました。当日は県内外からの参加があり、学芸員による



ギャラリートークを皮切りに、もーん父さんによる砂金採り体験レクチャーのほか、記念撮影会、町内特産品を用いたお茶会など盛りだくさんのメニューでお届けしました。

また、会場となった博物館の多目的ホールでは、「もーん父さん写真展」を開催し、子どもから大人まで幅広い世代にお楽しみいただきました。日々応援してくださる皆さまの温かい応援は「金山博物館のことをもっと知ってもらいたい」という強い原動力になっています。これからも、博物館のPRや訪れた人々との交流を大切にしながら、もーん父さんは博物館のPRを頑張ります。

5/12 日 本栖高校文化祭 2024

五条ヶ丘活性委員会からの依頼を受け、本栖高校（旧下部中学校）へとお出かけしました。キャンプを楽しむ人だけでなく、日帰りの来場者も多く訪れ、たくさんの方とふれあいました。

夏休みイベント2024

7/21[㊤] おしえて☆みやもん先生! 第16回 化学実験教室

要申込

宮本一弘先生(開成中高理化学教諭)が化学の不思議を楽しく・わかりやすく教えてくれるよ

場 所: 博物館1階 多目的ホール

定 員: 各実験 15人 (対象: 小学~中学生)

実験内容: 1時限目(9:30~)「水と氷の不思議」

①水の上を動く紙!? ②氷釣り

2時限目(11:00~)「空気のと水のと力」

①真空保存容器を使った実験 ②浮沈子

3時限目(13:30~)シャボン玉を浮かべよう!

①手のひらがひんやり ②シャボン玉を浮かべよう!

参加費: 各実験 200円(実験材料費として)

7/27[㊤] 第24回 砂金掘り大会

要申込

今夏の「砂金掘り王、に輝くのは誰だ!?

場 所: 博物館専用駐車場

定 員: 全部門合わせて 200人

※定員になり次第締め切り

参加費: 小学生@ 500円

中学生以上@ 1,000円

※競技運営・選手の熱中症対策として。競技砂金の持ち帰り不可

日 程: 9:30 ~ 受付

10:00 ~ 開会式(トロフィー返還・主催事務局挨拶・ルール説明ほか)

10:25 ~ 競技開始(ジュニア部門、U40、アダルト、予選→決勝)

15:30 すべてのプログラム終了予定

種 目: ジュニア部門 (小中学生)

6kg / 10分

男女一般部門

※自己申請式。とくに申し出がない場合は「①U40」へのエントリーとなります

①U40 (高校生から 40歳までの男女)

10kg / 10分

②アダルト (41歳以上の男女)

10kg / 10分

決勝戦 (予選①、②の各上位1割+α)

16kg / 15分



7/28^⑨ 第21回 砂金甲子園! 東西中高交流砂金掘り大会 要申込

今年も中高生のアツい戦いから目が離せない!

場 所: 博物館専用駐車場

日 程: 8:30 ~ 受付

9:00 ~ 開会式 (ルール説明・注意事項ほか)

9:20 ~ 競技開始 (団体戦・個人戦)

13:00 全てのプログラム終了予定



参加校決定!

灘(兵庫) 前大会優勝校
神戸女学院(兵庫) 逗子開成(神奈川)
桐朋学園(東京) 山梨学院(山梨)
麻布学園(東京) 大妻(東京)
開成学園(東京) 市川学園(千葉)
早稲田大学高等学院(東京)

8/4^⑨ 夏休み自由研究相談室 in 金山博物館 事前申込不要・参加無料

自由研究にチャレンジする君を応援! 信藤館長に相談してみよう!

場 所: 博物館1階 エントランス

日 程: 10:00 ~ 12:00 (午前の部) / 13:30 ~ 16:00 (午後の部)



8/11^{⑨祝} 第24回 激烈☆おやこ金山探険隊 要申込

毎年大人気のイベント。「中山金山(国史跡)」です。現場で金山の歴史を体感しよう。
遺跡登山の後、純銀地金を使ってオリジナル甲州金づくり☆

定 員: 10人 (対象: 小学中学年~中学生 ※保護者は定員に含まれません)

参 加 費: 隊員1人につき2,000円 (地金材料費として)

日 程: 7:40 博物館集合、17:30 解散予定

※すべての夏イベントは、天候やその他やむを得ない状況により変更の可能性があります。
最新情報は、当館HPまたはお電話にてご確認ください

※ お知らせ ※

夏季特別開館時間

当館の開館時間は9時~17時(最終受付16時半)ですが、下記日程で開館時間を**9時~18時(最終受付17時半)**までと延長させていただきます。夏の博物館も存分にお楽しみください!

【7月】13~15、27、28

【8月】10~19

※14日はお盆のため開館し、20日は振替休館です

編集後記: 最近、公私ともに言葉の力を感じます。一般的には「言魂」と言いますよね。余裕がない時、ついついネガティブワードを発しがち。そんな時こそ「自分ならできる!」、「運がいい! ついてる!」などポジティブワードに言い換えていきたいものです。(K・I)

甲斐黄金村・
湯之奥金山博物館だより

第108号

令和6(2024)年6月10日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HP▶<https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>
E-mail▶yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん▶X(旧Twitter) & Facebook

